

ダイビング・ベル

セウォル号の真実 真実は沈没しない

2014年4月16日、韓国の珍島海上で発生したセウォル号事件の真実を問う
韓国政府の無能さとメディアの共謀を批判し真実を暴き出す奮闘

「私たちの社会がどのような状態なのか、この資本主義体制がどれほど
墮落したかを示すとても重要な映画だ。監督の労苦と勇気、実直さに
敬意を表する」タル・ベラ監督

「歴史の一場面(シーン)を直に目撃する驚き」ジョシュア・オッペンハイマー監督

「『ダイビング・ベル』のような映画を私たちは後押しせねばならない。
この悲劇を私たちが忘れるとき、悲劇はさらに繰り返されるのだから」
モフセン・マフマルバフ監督

「1本の映画がどれほど人々の心を揺さぶり、腐った政治家を怯えさせ、
社会にうねりを巻き起こしたか。まずはこの『問題作』を見て、そして
語ろう!」ヤンヨンヒ監督

映画話
@TAMA

#12

映画を観た後に仲間や監督などゲストと
グラスを傾けながら話し合う。
それはDVDでもネットでも味わえない
ダイナミックで貴重な体験です。
映画について人と語り合い、
その意見の多様さに直接触れる豊かさ。
自宅のようにくつろげるバーで、
お酒に美味しいお料理も。
静かに耳を傾けるだけでもいい。
来れば何かが変わるかも。



問題作

共同監督：イ・サンホ／アン・ヘリョン 製作：アジアプレス、シネポート
©DivingBell2014 (韓国/2014年/77分/ブルーレイ上映)

2016 9/24(土)

懇親会 19:30 1時間

ゲスト: アン・ヘリョン 監督

①16:00 ②18:00

開場15分前、上映終了後トークなしで入れ替え
入場料: ¥1,500 (各回入替15名)

懇親会: 1ドリンク軽食つき ¥1,500

場所: ダイニングバー・モンキーランド
多摩市豊ヶ丘1-11-1(小田急・京王多摩センター駅から徒歩15分)

お申し込みは、予約フォーム www.taenoha.com

または 050-5891-1977 office@taenoha.com

主催: たえのは



たえのは



/taenoha



@taenoha

水面下に沈んだ真実解明へ向けた 声なき死闘!

2014年4月16日、
476人の乗客を乗せた旅客船
「セウォル号」が全羅南道珍島郡沖で沈没した。
事故による死者は295人、行方不明者9人、
捜索作業員は8人が犠牲になった。
船には修学旅行中の檀園高等学校の
生徒325人が乗船しており、
若い多くの命を失った。

韓国の国立海洋調査院によると、現場周辺に目立った暗礁はなく、
当時の視界は良好、波高約1mと、航行の安全に影響するような自然条件はなかったという。

事故の原因は不法な過積載による重量オーバー、運航の困難な海域に船長が席を離れ経験未熟な三等航海士が舵を握ったことなどが挙げられている。事故発生時に乗組員が乗客を適切に避難させずに船室に留まるよう指示したのも、犠牲者を増やした原因として指摘されている。しかし、これほど多くの被害者を出した背景には、これだけでは説明しきれない現実があった。

事故から4日目、珍島の彭木(ベンモク)港に到着したイ・サンホ記者は、テレビや新聞の報道とは異なる“現実”を目の当たりにする。「史上最大の救助作戦」「178人のダイバーを動員」といった勇ましい当局の発表とは裏腹に、救助のできない海洋警察、責任を回避する政府、現実を伝えないメディア…。結局、時間をかけてゆっくりと沈み行く船を目の前に、救助もままならず死者は増える一方だった。セウォル号事件とは何だったのか。その真相を突き止める渾身のドキュメンタリーだ。

釜山国際映画祭と「ダイビング・ベル」

セウォル号事件のタブーに触れた本作は、2015年10月に行われた釜山国際映画祭でも波紋を広げた。釜山国際映画祭の組織委員長を務める釜山市の徐秉洙(ソ・ビョンス)市長が「釜山国際映画祭の発展のために、政治的な中立性を欠く作品を上映することは望ましくない」とし、本作の上映の中止を求めたのだ。映画祭のプログラムに対して行政の長が意見するのは前代未聞のことだった。すでに審査を経て上映が決まっている作品に対して市長が中止を求めるのは、言論弾圧であり表現の自由を脅かすものとして、映画界だけでなくメディア界からも非難された。結局、上映は行われ、チケットは完売。観客から多くの喝采を受けた。

しかし、今年2月、徐市長は上映に踏み切った組織委の李庸観(イ・ヨンガン)執行委員長を事実上、更迭した。釜山市が監査の過程に問題があったとし、李氏に辞任を要求したのだ。映画界は「報復人事だ」として大きく反発。同月25日に開かれた組織委の総会では、出席者らが李氏の再任を求めたが、徐市長が強引に閉会宣言をし、総会を終了させてしまった。1996年から20年の歴史があり、アジアの代表的な映画祭となっている釜山国際映画祭への政治の不当な介入に対しては、韓国だけでなく外国の映画界からも批判の声が挙がっている。

映画と話そう #12

2016年 9月24日(土)

タイムスケジュール

16:00 1回目『ダイビング・ベル』上映

18:00 2回目『ダイビング・ベル』上映

19:30 懇親会1時間 アン・ヘリョン 監督

開場15分前、上映終了後トークなしで入替、全席自由

懇親会ゲストプロフィール

アン・ヘリョン監督 「韓国社会の構造的矛盾を解きかけとなれば・・・」

1990年代半ば、ビデオジャーナリスト第1世代として活動したアン・ヘリョン監督は、社会問題に対する関心を幅広く表現する映像ジャーナリストであり、数多くの作品を記録した。特に、在外コリアンたちへの広い理解と関心を寄せていたアン監督は、進歩的ジャーナリストグループの「アジアプレス」で活動、東アジア地域を横断し、在日コリアンの民族教育問題、忘れさられた韓国映画史の記憶などに関する作業を丹念に行ってきた。2002年の『沈黙の叫び』、2003年の『いまでも消えない傷たち』などの制作を通して、継続的に慰安婦問題や在日コリアン問題で先頭に立ってきたアン監督は、2007年、朝鮮人元慰安婦・宋神道(ソン・シンド)ノルモニの10年間に及ぶ裁判と闘争を描いた長編ドキュメンタリー『俺の心は負けていない』を通じ、観客に深い感動を贈った。

今後の予定

10月29日(土)映画と話そう@TAMA #13

映画「第九条」監督・脚本:宮本正樹 (2016年/78分/BD)

日本国憲法第九条は維持か? 破棄か? 真正面から挑んだ力作。
大東亜戦争、日本国憲法成立の歴史、朝鮮戦争、米ソ冷戦、沖縄の米軍基地問題、拉致、核など、多角的に九条の存在に不朽の名作『12人の怒れる男』のごとく12人の若者が熱い議論を交わす。



場所:ダイニングバー・モンキーランド

多摩市豊ヶ丘1-11-1

小田急・京王多摩センター駅 東口から徒歩15分

道順:

東口を出て右手、新宿方向に線路沿い(高架下)を直進。
信号を2つ渡り、「麺でる」を左折、乞田川 沿いを右折。
2つの橋を過ぎて3つ目の橋の手前、白い階段が入口です。



お申し込みは、予約フォーム www.taenoha.com または 050-5891-1977 office@taenoha.com

主催:たえのは たえのは

たえのは 検索 /taenoha @taenoha